伊丹市文化財ボランティアの会
火曜会通信

第56号
発行日：平成25年 2月 1日
発 行 ：伊丹市文化財ボランティアの会
発行所：伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市教育委員会事務局内

ボランティアガイド養成講座始まる

本年度のボランティアガイド養成講座は1月 29 日（火）の講座より始まる。5回の講座のあと史跡めぐりの準備、ガイドの実地練習を行って、3 月 20 日（水祝日）の市民参加の史跡めぐりで締めくくり、養成講座は終了する。受講者数は 7 名、4 月には新人のボランティアガイド 18 期生が誕生する。

今年のキーワードは“黒田官兵衛”

来年は黒田官兵衛を主人公とした、NHK大河ドラマ『軍師 官兵衛』の放送が始まる。

1月 23 日にはNHKが放送準備の下見に有岡城跡に訪れた。黒田官兵衛が幽閉された場所はどのあたりかといった質問等に、市の社会教育課、当会池田会長が対応した。

黒田官兵衛についての関心が高まっているなか、今年度のガイド養成講座には「有岡城主荒木村重と黒田官兵衛について」の講演が組まれている（中央公民館2月19日 14 時より）。

伊丹と縁のある武将“黒田官兵衛”の知見を広めるよい機会であり、一般会員もぜひ受講しよう。

恒例のお楽しみ新年会

1 月17日(木)の定例会で各会員、年頭の抱負を1分間スピーチで発表したあと、恒例の新年会を開催した。各曜日班、分科会および有志が出し物を演じて、芸達者ぶりを披露、楽しいひと時を過ごした。

ミュージカル「王様と私」どんぐり座の熱演

第6回ひょうご観光ボ発表会に出場

2 月 28 日(木)兵庫県民会館において社団法人ひょうごツーリズム協会主催「第6回観光ボランティア発表会」が開催される。

当会はこれまで会に出席していたが、今回は初めて発表会に、土日班の瀧内さんが出場する。出場者は10分の持ち時間でガイドの一節を披露、審査員にアピールする。

会員の皆さん、当日の応援よろしくお願いします。　（以上 松田 記）

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。
市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。（☎：072-784-8090）

三田観光ガイド一行と交流会

11 月6日、三田観光ガイド一行 10 名が伊丹を訪れ、当文化財ボランティアの会と交流した。まず有岡城跡、猪名野神社、そして三田市ゆかりの白洲屋敷跡を見て回った後、石橋家座敷での交流会に臨んだ。当会からは池田会長および幹事が出席した。

白洲屋敷跡のガイド

三田観光ボランティアは平成 20 年に「さんだ観光ガイド」として活動を開始、現在会員数は 17 名。JR三田駅近くの三田市総合案内所を集合場所に、毎週日祝日に定時まちあるきガイドとして、予約不要で市内ガイドに応じている。定時まちあるき以外にも依頼を受けて観光ガイドを行っており、また独自に企画したイベントも実施している。

会の資質向上のため三田市の近隣各市を訪れ、各地域のボランティアと交流するなど、熱心に活動されている。当会の歩み、現状等を説明してお互いに交流を深めた。

（松田　記）

石橋家座敷での交流会

ひょうご観光ボランティアガイド研修会に参加

ひょうごツーリズム協会主催による観光ボランティアガイド研修会が 11 月6、7日にあり、参加団体は 11、当会より3名が参加しました。

バスで神戸をスタート、最初の目的地、神河町砥峰高原はススキの大草原が広がり、「ノルウェイの森」や「平清盛」の撮影が行われた場所に立ち、その場に居ればスターに会えたのに・・・残念。その後福崎町へ。3班に分かれて銀の馬車道を歩いて「柳田國男の生家」と「記念館」を地元のガイドさんに案内してもらった。そこの前に三本葉の松が生え、その松葉を身につけていると、多くの智慧・長い幸せ・良き財産をもたらされると言われています。

塩田温泉で宿泊の翌朝は、活動状況報告会が行われ、それぞれの団体の代表者から活動内容が発表されました。ホテル出発の第一番目は、たつの市を訪問して「うすくち龍野ショウユ資料館」と「赤とんぼ歌碑」を見学し、「そうめんの里」へ足を延ばしました。

たつの市の街を歩く

最後は日本で初めて世界遺産になった、工事中のテントに覆われた姫路城へ。足元に気をつけながらエレベーターで海抜 100mに設置された見学スペースへ、そこから目の前にせまる大天守閣のシャチを見て満足。

いずれも現地のガイドさんによる説明があり、やはり現場を見て説明されるとより理解できました。各グループとの交流も図れ、有意義な二日間が過ごせました。（酒井　記）

伊丹の文化遺産と歴史探訪

伊丹ユネスコ協会研修会ガイド

平成24年度の伊丹ユネスコ協会研修会が「伊丹の文化遺産と歴史探訪」と銘打って11月9日に開催され、22名の協会会員を金曜班6名が案内しました。

〈昆 陽 寺〉

9時 30 分にバスで市役所を出発、昆陽寺に向かい、朱塗りの山門と境内の黄葉したイチョウに迎えられました。

本堂ではご住職のユーモアを交えたお話に、楽しい時間を過ごさせていただきました

行基菩薩が猪名野笹原を開墾、昆陽の庄と名づけて、その中心に七堂伽藍、僧房、堂宇を建立、昆陽寺としたこと。たびたびの災禍に遭い、特に阪神淡路大震災ではそれまでの数百年の歴史が崩壊したこと。震災直後より解体修理、再建された苦労話には実感がこもっていたように思いました。また昔は西国街道が通る交通の要衝にあったのに、今は電車の駅からも遠く、少し寂しい思いですと話されました。

イチョウ黄葉の昆陽寺

ご住職には、お忙しい中、行基堂内の仏像の説明、鐘楼の内部にまで入れていただき、また境内のヒイラギの古木について懇切丁寧に案内をしていただきました。

協会会員の皆様には境内の後醍醐天皇、行基の歌碑を案内して、昆陽寺を後にしました。

『命あれば 昆陽の軒端の 月も見つ 又いかならん 行末の空』 増鏡

『山鳥の ほろほろとなく 声きけば 父かとぞ思ふ 母かとぞ思ふ』 玉葉和歌集

〈有岡城跡〉

午後から有岡城跡では、惣構えの城、三個所の砦の話などよりも、黒田官兵衛のことが話題になりました。これからは、いろんなお客様が黒田官兵衛に興味を持って来られるのではと思いました。

有岡城跡のガイド

〈墨 染 寺〉

墨染寺では、墓地に入れていただき「女郎塚」では、側面の「天正七年十二月十三日落城」の文字が刻まれており、落城により処刑された女郎らの供養のために建てられたと伝えられています。また、近くに「上臈塚砦」があったことにちなんだ石碑の可能性もあります。荒木村重の墓と伝えられている「九層の石塔」、「鬼貫の親子墓」を案内しました。

〈猪名野神社〉

多くの灯籠、注連柱の刻銘、本殿、幣殿、拝殿と境内の鬼貫句碑、「きしの砦」の土塁跡の説明し、ムクロジの木には興味を示された。最後に旧岡田家住宅で説明ビデオを見たあと、建物の説明をしました。

会員の皆様は、地元の方ですが、身近にある史跡も知らなかったことが多かったと感想を述べられた。残念だったのは、全員の方がそろって最後まで回ることはできなかった点です。 （内田 記）

鳴門の渦・徳島城・阿波踊り

～平成 24 年度秋季研修バス旅行～

晩秋の11月 20 日(火)、秋季バス旅行は幸い天候にめぐまれ、四国の鳴門市・徳島市の自然・文化財と歴史をたずねた。

県立渦の道

鳴門海峡にかかる大鳴門橋の橋桁下部に設置された、延長約 450mの遊歩道および展望台である。展望台からは瀬戸内海と太平洋を見渡せ、渦潮の発生する場所を間近に見下ろすことができる。あいにく時間の都合で渦を巻いているところは見られなかったが、床の一部がガラス張りで、覗き込むと海面に白波が立ち、海流が複雑な動きをしているのがよくわかった。

霊山寺(四国八十八ヶ所第一番札所)

霊山寺は「発願の寺」で、縁起によると聖武天皇の勅願により行基菩薩が開創となっている。弘仁6年(815 年)に弘法大師が四国を巡教した際、この地で心身の救済ができる霊場を開くために修法された。念持仏の釈迦誕生仏像を本尊の前に納めたことから、第一番札所と定められた。天正 10 年(1582 年)長宗我部元親の兵火により、堂塔は焼失した。その後、阿波藩主蜂須賀光隆公により復興されたが、明治 24 年(1891 年)の出火により、本堂と多宝塔以外は焼失した。

バスの車窓から

バスが走行する道路の右側は湿地帯のレンコン畑、左側は砂地の鳴門金時の畑が広がるという珍しい光景を楽しむことができた。

国史跡指定・徳島城(旧・徳島城表御殿と徳島城博物館)

徳島城は吉野川河口付近の沖積平野にある標高 61.7mの城山を中心として、周囲を河川に取り囲まれた要害の地に築かれた。山城と平城で構成される連郭式平山城で、戦国時代の面影を残す質実剛健な城といえる。

天正13年(1585 年)阿波に入国した蜂須賀家政が本格的な築城に着手した。以後、明治2年の版籍奉還まで領地替えもなく、蜂須賀氏が続いたことで、築城当初のほとんどが残っている。天守は本丸に置かず、東二の丸に築かれ、石垣の石のはほとんが阿波特産の結晶片岩(緑色片岩・紅簾片岩)で築かれている。寺島川沿いの石垣に、屏風折れの塀が突き出し、敵を横から攻撃できる防御設備(横矢掛かり)の遺構である舌石が残っている。とくしま観光ガイドボランティア会のみなさんの案内で、2班に分かれて表御殿庭園を散策し、徳島城博物館で特別展を見学した。

蜂須賀家家紋

阿波踊り会館(阿波踊り観賞・体験)

専属連「阿波の風」による阿波踊りを観賞後、踊りの歴史・踊り方のレクチャーを受け、阿波踊りを体験した。阿波踊りコンテストで、水曜班の中山さんがみごと1位に輝いた！

♪ 踊るあほうに見るあほう、同じあほなら踊らにゃソンソン ♪

(藤原 記)

阿波踊り会館前で記念撮影

秋色に染まる伊丹郷町界隈

～第２回　阪急神戸線観光あるき～

11 月 18 日（日）、心配していた天候も回復し、伊丹郷町館を中心としたコースを歩きました。残念ながら参加者は少なく、女性 3 名のみでした。主催者関係者・会員を含め 15 名で阪急伊丹駅を出発しました。

今回のコース

〔集合〕阪急伊丹駅→猪名野神社→金剛院→みやのまえ文化の郷→有岡城跡→荒村寺→本泉寺→墨染寺→三軒寺広場→阪急伊丹駅〔解散〕

参加者の方々はガイドの説明に耳を傾け、質問を混じえながらの和気あいあいとした町あるきになりました。今回は若い女性が参加されていたので、ちょっとお話しを聞かせていただきました。その方は今年度の伊丹市観光大使（ローズメイト）をされており、『観光大使として、もっと伊丹のことを勉強したいと思って参加しました』とお答えいただきました。今回の町あるきがきっかけとなり、伊丹の歴史・文化財への興味と理解が深まり、今後のローズメイトの活動に活かされると嬉しいなと思います。

猪名野神社　鬼貫の句碑ガイド

町あるきを終えた今、少し心残りに思ったことがあります。11 月は「台柿」が実っている季節であり、年に 1 度この台柿を賞味できる季節でもあります。台柿は、他では見ることのできない伊丹ならではのものです。江戸時代の伊丹は酒造りが盛んで、多くの文人墨客が訪れました。経済面のみならず文化的にもたいへん栄えていました。頼山陽の逸話などを聞きながら台柿を味わい、味覚からもこの町を感じていただければ、印象深いおもてなしになったのではないかと思いました。　（藤原　記）

金剛院前にて

パソコンの会　分科会紹介（その2）

ティータイムでよもやま話

『パソコンの会』は火曜会発足後間もなく、文化財活動の資料作りにパソコンを活用したいという会員の要望から、“相互の啓発を図りつつパソコンを楽しみながらマスターする”という趣旨で、坂根さん、斎藤さん、福島さんが世話人となって、平成 10 年 2 月に同好会として発足しました。分科会の中では一番古い歴史をもつものであります。

当初の参加者は 13 名、会場はラスターホールで月 3 回、当時は文書作成がワープロからパソコンに代りつつあった頃で、学習内容も「ワード」や「インターネット」等の操作習得を目指していました。その後パソコンの普及は目覚しく、機能も多様化するにつれ、技術習得に適した機種を備えた公民館へ、さらに平成 19 年 10 月からは再びラスターホールへと学習の場が移動しました。

現在、登録会員は 15 名、月 2 回（原則第 2、

4木曜の午後3時間）で12～13名が熱心にパソコンに親しんでいます。学習内容は斎藤さんより提供される各種テキスト（文と図示の説明に従い、キー操作して学習する文書作成）や資料の他、火曜会への参画活動として、各種イベント用のチラシや資料作成、また『火曜会通信』の発行（松田さん他編集）等です。毎年末には斎藤さんより提供される資料を使って、各自が年賀状を作成するのも、学習の一つとなっています。

パソコン会のもう一つの楽しみは会員相互の交流にあります。無機質なパソコン相手の学習時間に設けられた『ティータイム』はまさにオアシスに憩う感があります。飲み物と菓子でよもやま話を弾ませ、色々の情報交換の場になっています。また年1～2回の食事会をすることで、相互の親睦を図っています。

最後になりますが、会の発足以来15年にわたって学習指導をしていただいている斎藤さん（当会1期生）には感謝この上もありません。どんなことでも分かりやすく指導・教示いただける貴重な先生です。この先生に教えて頂きながら、パソコンも上達、仲間とも楽しい交歓ができるなんて、なんとも貴重な集まりです。是非ともパソコン会へ参加して、火曜会活動を楽しんで下さい。

（保理江　記）

食事会のあとで

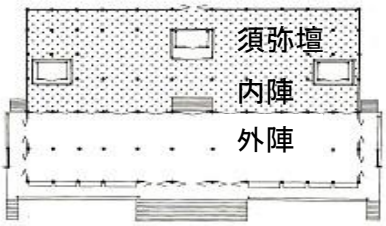
仏堂の変遷　内陣、外陣および後陣

中川　康

この秋、多くの天台宗の寺院を訪れた。先ず、延暦寺根本中堂（国宝）、現存の根本中堂は寛永17年（1640年）に再建された

延暦寺根本中堂

根本中堂の内陣は外陣（げじん）より二段ほど低く土間で構成されており、中央に須弥壇（しゅみだん）があり、そこに本尊の薬師如来が祀られている。伝統的な天台宗様式を引き継いだお堂と言える。これに触発され、同じような天台宗様式の本堂がある太山寺（神戸市）を訪れた。この本堂（国宝）の正面は柱間七間の大型密教本堂で、内陣はやはり土間で構成されている。



さらに、湖東三山の金剛輪寺、百済寺そして西明寺、長命寺を訪れ、また真言宗の明通寺、六波羅密寺にもお参りした（全ての寺院の本堂は国宝である）。

多くの寺院で共通するのは、仏が祀られている内陣と参詣者がお参りする外陣は、蔀戸（しとみど）や格子戸できっちり分けられており、本尊はほとんどが秘仏であり、拝観することはままならない（六波羅密寺では今年の辰年に、本尊の十一面観音が開扉され、拝観することができた）ことである。天台宗の内陣と外陣の状態に関しては、我々がバス

研修で訪れた朝光寺、鶴林寺や湖南三山の善水寺そして常楽寺を想いだせば、容易に気づくことではある。

内陣および外陣の歴史

内陣および外陣を構成する仏堂が歴史的にどのように発展したかを振返ってみる。

仏堂は法会、即ち仏教儀式の場である。

顕蜜仏法を標榜する諸寺院における法会には、修正会・修二会、寺院の創立に関与した祖師や檀越に係わる忌日・追善の法会、仏教本来の涅槃会や彼岸会などがある

古代の金堂の性格が飛鳥・奈良時代以来変わりなく続いてきたかどうか明らかにすることは難しい。飛鳥時代、伽藍の中門が極めて重要な役割を担っていた。中門が本来、伽藍の出入り口である門としての機能の他に、一個の堂としての機能があった。即ち、中門が法会を実施する空間であったことが記録に残されている（中門の梁間が三間もあり、金鼓が置かれていた）。法隆寺や薬師寺の金堂には僧侶といえども入ることはできなかったといわれるが、実際は内部に入って仏事を修していた。

平安時代初期に、最澄により天台宗、空海により真言宗が請来され、全ての人は修行することによって仏になり得る（一乗思想）、また修行によって悟りを得れば現世で仏になりうる（即身成仏思想）という道が開かれた

天皇、皇族や貴族は仏教の外護者となり、僧侶や寺院を保護することにより仏と結縁して個人的な願望や欲求の成就を希求することになる。また一般人も加持祈祷を願い、参詣するようになる。こうして僧侶や関係者が仏に近侍するために仏堂に入るようになってくる。

奈良時代末期には、礼拝用の空間として従来の仏堂の前に礼拝用の建物を並列させる双堂（ならびどう）形式が生まれる（例、法隆寺の食堂と細殿、東大寺の法華堂）。

平安時代になると、同じ仏堂内に礼拝空間をつくるようになる。礼拝空間を仏堂の内部に設けるにあたっては、これまでの仏の専有する一堂一室だった空間の内部を、「仏の空間」と「人の空間」とに区分するようになる。仏堂内が仏の専有空間である内陣と礼拝空間である外陣とに仕切られ、その間は格子戸、蔀戸、欄間などで明確に区分された。仏堂内部を分割する場合は柱筋を利用して建具などで仕切る。また、新たに付加するばあいは、仏堂の前面の庇をそのまま吹き降ろして礼拝空間をつくる（例、室生寺金堂、当麻寺本堂）。

中世、鎌倉時代以降になると、仏の空間である内陣は外部と厳格に遮断される。内陣側には通常出入り口は設けず、窓も無い閉鎖的な仏の絶対空間とする。さらに、内陣は僧侶たちの行道（ぎょうどう）空間として使用するため、須弥壇を中心にその周りを読経しながら巡る三昧行が行えるように設えてある。天台宗の大寺では、外陣は床を張るが内陣はそれより低い土間とし、その中央に石檀を築き宮殿（くうでん）を置いて仏像を安置する。また、内陣と外陣の仕切りも厳格で、蔀戸、格子戸、欄間などで遮断する。一方、外陣は開放的にして出入り口や窓を全面に設ける。内部は前後に虹梁を間の柱を省略することにより、広い礼拝空間を創出する。

後陣（後戸）の多彩な機能

鎌倉時代になると仏教が大衆化して参詣者が多くなることから、さらに広い外陣が要求されるようになる。広い外陣を実現するために、柱間二間または三間分の虹梁を前後に架け渡して、途中の柱を省略する方法が取られる。また、同時に参籠する人のために内陣の両サイドに脇間（局）と呼ばれる小部屋も用意される。さらに、法会の準備などに使う後陣（後戸、うしろど）という部屋も設けられた。後戸には、仏法守護神（魔多羅神等）が祀られており、閼伽棚も設けられ、本尊等への供水・供花に用いたと考えられている。後

戸は入道場時の入口としても使用されるし、猿楽の芸も行われたという。このように、後戸は多くの機能を有していたと考えられる。

〈参考文献〉
1)山岸常人「中世寺院社会と仏堂」(塙書房 2000)
2)松谷洋「日本建築の底流-仏堂とその変遷」(2011)

活動記録（11 月～1 月）

定例会・11/13(火) ・12/11(火)・1/17(木) 引続き新年会

案内ガイド ・11/6(火)岡田家他(三田観光ガイド 三田) ・11/9(金)Aコース他(伊丹ユネスコ協会 市内) ・11/9(金)Aコース(笹川 箕面) ・11/10(土)A・Bコース(近畿中央病院近桃会 市内) ・11/27(火)岡田家(阪神地区自治会連合会 市内) ・12/1(土)Eコース(西野山歩会 市内) ・12/2(日)Aコース(山手大学まち歩きグループ 市内) ・12/4(火)Aコース(陶矢・歩こう会 吹田)・12/11(火)岡田家(西神戸西国街道あるき会 神戸) ・12/14(金)Aコース(NHK高松教室 高松) ・12/17(月)Aコース(小田歴史同好会 西宮) ・12/21(金)Aコース(NHK高松教室 高松) ・1/11(金)AM・PMAコース(シニア自然大学校 狭山) ・1/23(水)Aコース(日本セカンドライフ協会 神戸)

屋外研修 ・11/20(火)秋季バス研修旅行 鳴門・徳島方面

歴史ロマン体験学習支援 ・12/8(土)扇をつくろう ・1/19(土)古代の楽器をつくろう

どんぐり座公演 ・11/11(日)いきいきプラザ ・1/25(金)鴻池小

ロマン事業実行委員会支援

・11/3(土)4(日) 有岡城跡・伊丹郷町の昔のお家をつくって飾ろう

有岡城跡の清掃

・12/25(火) ・1/22(火)

文化財保護協調月間一斉清掃 ・12/1(土)

今後の予定（2月～4 月）

定例会 ・2/12(火) ・3/12(火) ・4/9(火)総会

案内ガイド ・2/13(水)Aコース(ダイワハウス奈良支部散策クラブ 奈良)・2/24(日)Aコース(関西城郭研究会 神戸)・3/7(木)岡田家(中山台ボランティア交流会 宝塚)・3/9(土)Aコース(ニューワンデイハイキング会 川西)・3/27(水)Aコース(郷土歴史クラブ 三田)

歴史ロマン体験学習支援 ・2/23(土)平安時代の絵本をつくろう ・3/16(土)平安時代のあそびをしてみよう

有岡城跡の清掃 ・2/26(火)・3/26(火)・4/23(火) いずれも 9:30～

ボランティアガイド養成講座

・1/29(火)文化財とは文化財ボランティアについて ・2/5(火)伊丹の歴史について(古代～中世) ・2/12(火)有岡城跡・伊丹郷町について ・2/19/(火)有岡城城主荒木村重と黒田官兵衛について ・2/26(火)国史跡『伊丹廃寺跡』について ・3/5(火)史跡めぐり準備 ・3/12(火)史跡めぐりガイド練習 ・3/20(水祝日)市民案内史跡めぐり

編集後記

火曜会通信56号の編集に追われ、ボランティアガイド養成講座が始まる 1 月末、この時期が寒さのピーク、岡田家当番もしばらく冬休み。会員の皆さん風邪など引かれませんように、お互い若くはない身、体調管理に気をつけて、寒さを乗り切りましょう。 (T M)